



接道条件ごとに異なる住戸構成で有効な外部空間を創出していきます。

分析の比較・考察を通して主に角地ではL字ボイド型を軸にプライバシーウォール型やハーフ&ハーフ型を用いる事でより相乗効果を期待できることが明らかになりました。また住戸間、南北に接道する住戸では隣家との物質的な距離を生み出す必要がある為にハーフ&ハーフ型を用い、それを補強する為に視線をコントロールしていくプライバシーウォール型を用いる事が有効であることが明らかになりました。

住戸構成と敷地条件の適合する相性を明らかにしました。

	3戸建	4戸建	5戸建
角地	○	×	△
南北に接道する住戸	×	○	△
東西に接道する住戸	△	△	○

角地で外部を多く取り込む事ができる構成

- ・L字ボイド型
- ・L字ボイド型+プライバシーウォール型
- ・L字ボイド型+ハーフ&ハーフ型
- ・ハーフ&ハーフ型+プライバシーウォール型

角地  
(異なる道路が90度で交わる敷地に建つ住戸)

南北が接道している場合  
(且つ東西を住戸に挟まれていた場合)

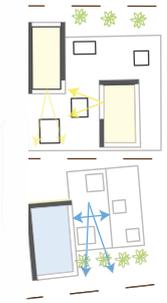
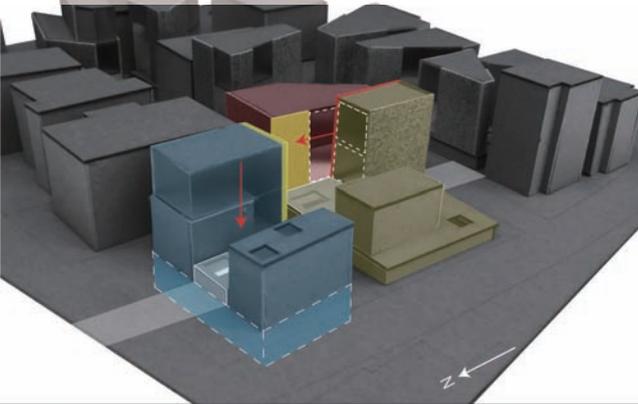
南北が接道している場合で外部を多く取り込む事ができる構成

- ・L字ボイド型+プライバシーウォール型
- ・プライバシーウォール型
- ・ハーフ&ハーフ型
- ・ハーフ&ハーフ型+プライバシーウォール型

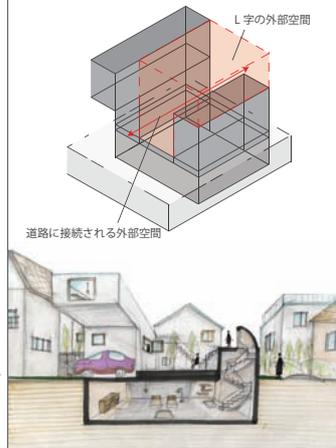
住戸間

(3戸の住戸に隣接している住戸)

外部を連担していく構成 (角地の場合)



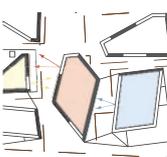
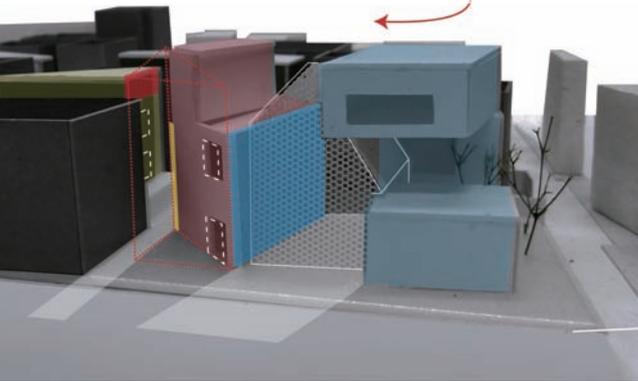
GLより1m高いレベルで安定した視線の抜けを生み出します。



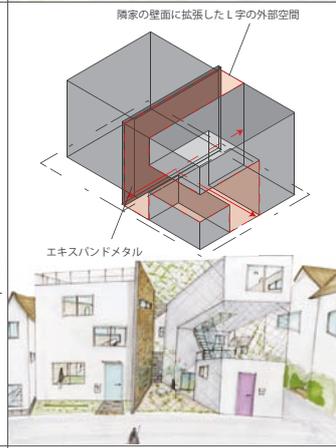
L字ボイド型+ハーフ&ハーフ型

敷地内に見えないL字の外部を生み出す。角地を活かして片一方の道路では閉じ、もう一方の道路では敷地内外と接続されます。敷地内外は少しレベルが高く、私的領域性のある外部になり住戸内の回遊性を生み出します。また隣家の環境も改善する事ができます。

外部を連担していく構成 (角地の場合2)



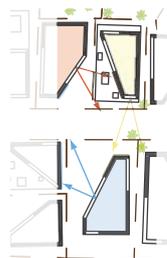
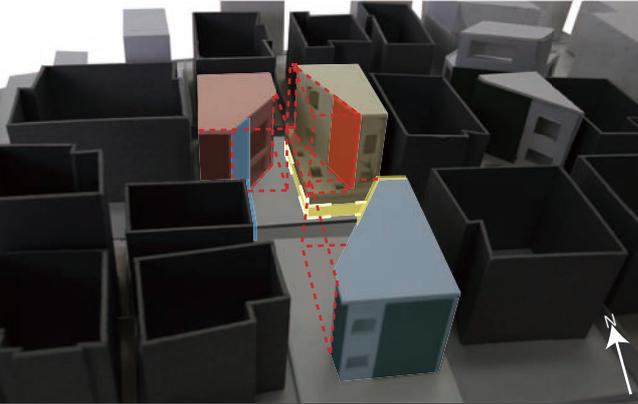
一戸一戸の住戸が壁面を提供しあうことで生活領域を広くしていきます。



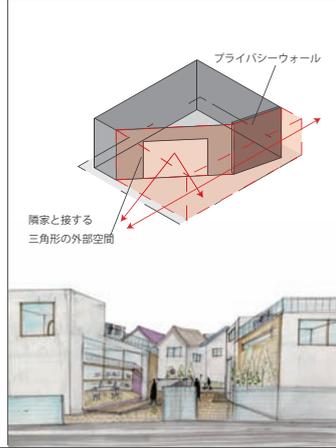
L字ボイド型+プライバシーウォール型

住戸内に立体的な外部を貫入させる。角地で隣家の壁面を最大限利用する住戸。隣家とあえて距離をとりL字の外部を用いる事で、見る向きで異なる開き方をする住戸になります。隣家との敷地境界を超えた利用方法になり、2階レベルの外部はより私的になり住戸内に外部の部屋のような場所が複数生まれます。

外部を連担していく構成 (住戸間・南北に接道する場合)



壁面を借りながら細街路に空地のたまりを生み出します。



プライバシーウォール型+ハーフ&ハーフ型

住戸間に道路も含めた外部のたまりを生み出す。主に住戸間で一戸の住戸にプライバシーウォールという閉じる面を立てます。そして敷地に対して半分カットして外部をつくります。同じ構成の2戸を隣接させることで向かい合う壁面にルールを私的な通りとなっている細街路に外部のたまりを生み出します。

連担する住戸の増加により段階的に改善される街区

3戸建で変わる

5戸建で変わる

6戸建で変わる

9戸建で変わる

12戸建で変わる

屋外リビングが道路に面して開きます。住戸間に路地のような外部を生み出します。

レベル差を活かして屋外リビングが道路に面して開きます。

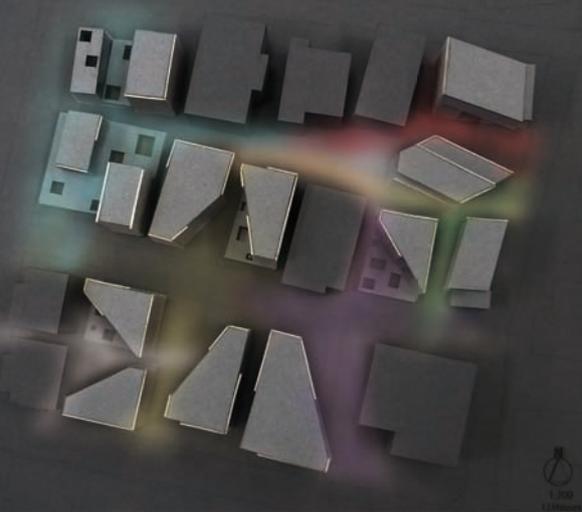
細街路を拡大するような外部が道路を挟んで生まれます。

段階的に細街路を拡大するような外部が道路を挟んで生まれます。

私的領域の外部の路が生まれます。

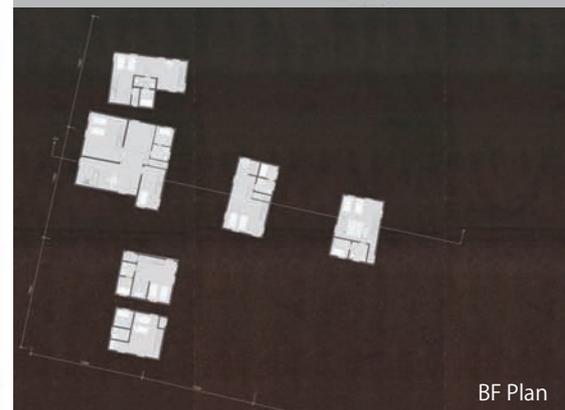
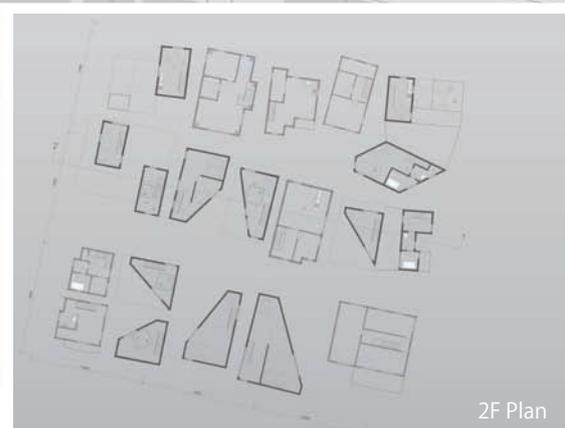
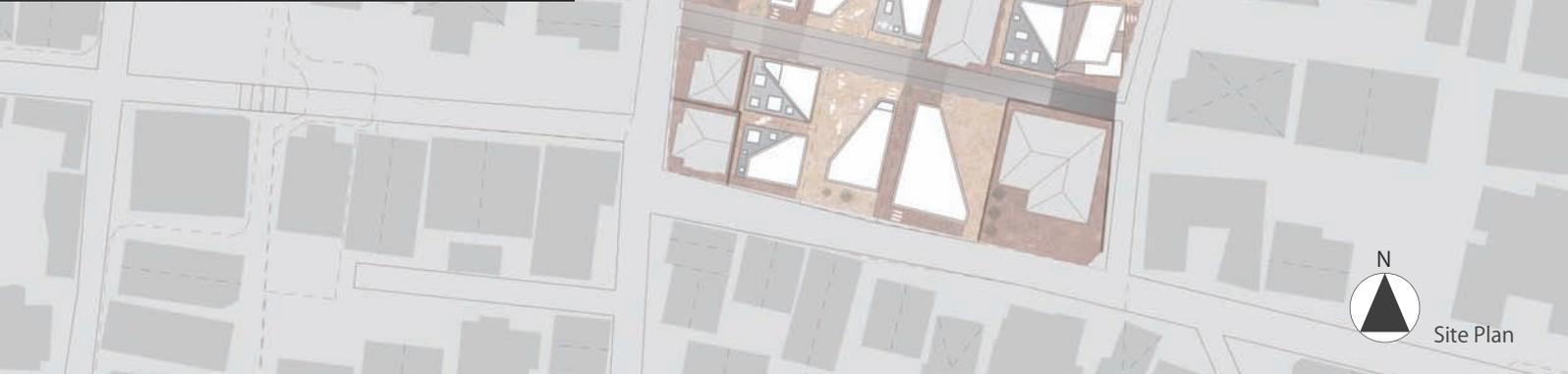
区画内の外部が接続されていきます。

段階的に細街路を拡大するような外部が道路を挟んで生まれます。



密集した住宅地の距離感を整理していくことで、外部空間を連担する住戸が段階的に増え、ゆるやかな外部のつながりが見えてきます。

それは特別に関わりを持つ事とは異なる、新たな出会いの生まれる「偶然性が入り込む仕掛け」が都市の新たな住宅地の様相を生み出します。



Section

East elevation



各々の住戸が距離感を整理する先に人々が出会う「偶然が入り込む仕掛け」が都市の新たな様相を生み出します。



隣家の壁面を借りた、右の住戸はネットを利用して私的領域を拡張します。



細街路を含めた住戸間ではボリューム配置とレベル差を活かして視線をかわしながら周囲に開いていきます。